

神奈川大学資格教育課程通信

第 33 号

編集・発行 神奈川大学資格教育課程協議会
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎045-481-5661 (代) 内4237

「アクティブ・ラーニング」をめざした教育実践の報告

人間科学部教授
社会教育課程 入江 直子



現在、全国の約200校の大学・短大に「社会教育課程」が設置され、学生が「社会教育主事基礎資格」（1年の現場経験をもって「社会教育主事」への任用が可能となる）を取得している。しかし、資格を取得した学生が社会教育主事の職に就けることは極めて稀である。それは、社会教育法で教育委員会事務局に必置とされているにもかかわらず、実際の市町村における社会教育主事の配置が6796人（平成8年）から2521人（平成23年）と、15年間で63％も減少したという状況があるからである。本学の社会教育課程も同じ状況にあり、課程を履修する意義について、「履修要覧」では次のように述べている。

「社会教育主事の職は、数が非常に限られていて、就くことができる可能性が極めて少ない職です。しかし、社会教育課程（特に、地域の活動に実際に参加し、習）を履修することは、次のような意義があります。

①「社会教育に関する職」（文化・スポーツ産業等）に求められる力をつけることができる

②市民のボランティア活動やNPO活動の実際を知ることができる

③「実習」を通して「企画力」や「コミュニケーション力」をつけることができ、それはどんな職業にも必要な「就業力」となる」

私は、以上のような展望を持って、1996年の着任以来、唯一の社会教育課程担当教員として約20年間課程運営に携わってきた。

ボランティア活動のススメ

経営学部助教
社会教育課程 望月 耕太



2015年4月に本学の経営学部（教職課程）に着任いたしました。「教育方法論」「学校ボランティア演習Ⅰ・Ⅱ」等の授業を担当しております。神大に着

本学の社会教育課程は、1975年に設置され40年の歴史がある。そのうちの20年を私が担当してきたが、以下、その教育実践を、この「資格教育課程通信」の各号における課程の活動報告を基に辿る。

この「資格教育課程通信」の前身である「教職課程通信」は1984年に創刊された。創刊号から私が着任した年の第13号までにおいては、「社会教育課程の特色」として、実践的・体験的な学習をめざし、そのために「社会教育演習」の授業を中心に、研修合宿・施設見学・外部講師による特別講義などに取り組み、さらに研修合宿の企画運営・報告書作成などを学生が自主的に担っていることが報告されている（私は、1987年度より非常勤講師として関わっている）。

1988年度には、省令改正によるカリキュラム改訂が行われ、（その後省令改正がないので現在も大枠は同じ）次の科目構成（各4単位）になった。

「生涯学習論Ⅰ・Ⅱ」「社会教育計画」「社会教育演習」「社会教育特講Ⅰ」「社会教育特講Ⅱ」「社会教育特講Ⅲ」

私は、この科目構成と「実践的・体験的な学習」という課程の特色を引き継ぎ、学生の実践力の形成をめざした。まず「社会教育演習」の中に、夏期休暇等を利用した1週間程度の実習を取り入れ（1997年度）、さらに、次のようなカリキュラム改革を進めた。1つには、全学的なセメスター制への流れの中で、「社会教育特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内容の多様化に向けて、それぞれ2単位科目の「人

権教育」「女性学」「若者文化論」「ワークショップ論」「地域の国際化と教育」「ボランティア活動論」に分け、各領域に詳しい非常勤講師をお願いした（1999年度）。

2つには、現場での「実習」を早い段階で経験し、現場に関わりながら学習を進められるように、「社会教育実習」を新たに開設した（2010年度）。「社会教育実習Ⅰ・Ⅱ」（2年次）では、前期にさまざまな施設を見学し、その後各自が夏期休暇を利用した1週間程度の施設での実習を行い、さらに「社会教育演習Ⅰ・Ⅱ」（3年次）では、近隣の施設で学生がグループで事業の企画・運営に関わらせてもらうようにした。

なお、本学は2006年度入学者から第二部を廃止したため、第二部の社会教育課程は、

す。活動に参加している学生達の様子から、こういった活動は、教育者としてだけではなく一人の人間として成長するチャンスに溢れており、教育的な意義が大きいものであることを実感しています。

このような活動を継続し、さらに充実させていくためには、本学の教職員の努力はもちろんのこと、神大生に関わってくださる関係機関のご協力が必要不可欠です。今後とも皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

神大での1年足らずの勤務経験ではありますが、本学は教育機関におけるボランティア活動が非常に盛んな大学であると感じています。

表 1 2015年度教職課程登録者・内諾者・教育実習者数

	1年次		2年次		3年次		4年次			大学院		科目等履修生	
	仮登録	本登録	本登録	内諾	本登録	内諾	実習	内諾	実習	内諾	実習	内諾	実習
法 学 部	45	32	36	11	40	3	13	0	1	0	2		
経 済 学 部	80	43	51	19	75	5	16	0	0	1	1		
経 営 学 部	22	14	11	3	17	1	3	0	0	0	0		
外国語学部	67	29	40	25	69	7	26	0	2	2	0		
人間科学部（心理発達、人間社会コース）	93	12	25	6	19	0	7	0	0	0	1		
人間科学部（スポーツ健康コース）		70	63	40	88	2	55	0	0	0	4		
理 学 部	123	86	95	39	116	10	23	1	5	2	4		
工 学 部	75	47	47	8	51	2	11	0	0	1	1		
計	505	333	368	151	475	30	154	1	8	6	13		

注：1. 「内諾」は2016年度教育実習の「内諾」を示す。
2. 「実習」は2015年度教育実習を示す。

表 2 2016年度教員採用者数

	在学生	卒業生
法 学 部	1	2
経 済 学 部	1	1
経 営 学 部	1 (1)	2
外国語学部	5	4
人間科学部（心理発達、人間社会コース）	0	1
人間科学部（スポーツ健康コース）	2	2
理 学 部	2	9
工 学 部	0	4
計	12 (1)	25

注：（ ）は内数で、私立学校採用者を示す。

育課程の卒業生は2009年が最後となった。合同の合宿は、お互いとても貴重な経験であった。

このようなカリキュラム改革を経て、現在の社会教育課程における学習は、以下のようになっている。

「1年次で入門的な学習（生涯学習論）をし、2年次で施設見学と現場での実習を通して現場を知り、3年次でグループで現場に出かけて事業の企画・運営に関わって職員の仕事を実践的に学ぶ、という『現場で学び、実践力を養う』ことをめざしている」（「資格教育課程通信」第32号より）

以上が、「アクティブ・ラーニング」をめざした私の20年にわたる教育実践についての、「資格教育課程通信」に基づく報告である。

2015年度各課程活動報告

教職課程

2015年度の教職課程は、望月耕太先生を専任スタッフにお迎えしスタートしました【1面参照】。望月先生は経営学部所属（湘南ひらつかキャンパス）ですが、横浜キャンパスでも「教育方法論」を担当されています。

初々しい1年次生の姿が目立つ4月は駆け足で過ぎていきます。1年次生の多くは、「教育原論」「教育心理学」「教育と社会」を履修し、2年次からは「教科教育法」や「教職論」「教育課程論」「教育方法論」、そして「生徒指導論」「特別活動論」「道德教育論」などを履修していきます。

3年次には「教育相談」に関する科目や、「教育実習指導Ⅰ」（後学期）などを履修し、4年次に備えます。

5月末頃からは、6月中旬を中心多くの4年次生が教育実習に向かいます。

実習校で3週間のご指導を受け【3面参照】、7月に帰って来る学生の顔つきはどこか違います。夏の教員採用試験に向けた対策も熱を帯びてきます。

教員採用試験対策

4年次生は、2014年夏頃から専門教養対策・教職教養対策・論文文に関する

講座、ならびに模擬試験を受けて対策を重ね、春を迎えました。この間横浜キャンパスでは、2015年度より、進路として教職を選ぶにあたって学生が抱える迷いや受験直前の悩みなどに対して、常駐する「学習アドバイザー」（元中学校長）に相談できる体制を取りました。初年度にもかかわらず多くの相談件数があり、学生サポートをひとつ加えることができました。

7月には一次試験を迎え、一次合格者には8月初旬に二次試験対策を実施し、前学期が終わります。

学校ボランティア交流会

前学期末には、7月17日（金）6限（18時）に、日頃より学生をボランティアとして受け入れてくださっている近隣の小・中学校の校長先生を中心とした方々を横浜キャンパスにお招きして、学生および本学教員との交流会を実施しました。

学生は、日頃お世話になっている学校の先生方を前に、日常の大学授業よりも幾分張り切って報告に臨み、先生方からはさまざまな助言をいただくとともに学生を励ましていただきました。

教員免許状更新講習

夏休み期間には、8月10日（月）・11日（火）に、

教員免許状更新講習（必修）を横浜キャンパスで実施しました。本講習は少人数で議論する「ラウンドテーブル」形式をとっています。

2015年度は、「教職生活」をふり返り、教育の最新事情を学ぶことをテーマとし、まずは受講される先生方各自の教員生活のふり返りを少人数で聴き合いま

した。講義「学校内外の連携協力」「子どもの変化についての理解」「学校を巡る状況の変化」「教育政策の動向理解」についても、各グループに配置したファシリテーターのサポートのもと、受講者の熱心な議論が繰り広げられました。

教員採用試験結果

夏の二次試験を終え、秋には結果が発表されました。

別表【1面】のとおり、2015年度実施の教員採用試験合格者は横浜と湘南ひらつかの両キャンパスを合わせて37名（うち現役合格12名）となりました。現役合格者には、次年度に教育実習と採用試験を控える3年次生に向けて経験話を話してもらいました【4面参照】。

残念ながら合格を果たせなかった学生には再チャレンジしてほしいと思いますが、臨時・非常勤教員として教壇に立つ学生も少なくありません。合格者はもちろん、再チャレンジする学生にも、今後のご活躍を期待いたします。

「教職実践演習（中学・高校）」の展開

後学期開講科目の中で、2013年度より4年次後学期必修科目として開講された本科目についてご紹介します。

本科目は、教職課程における学修の集大成として、教育実習をふり返って自らの課題を明確化するとともに、教員としての「使命感・責任感」「社会性・対人関係能力」「子ども理解・学級経営」「教科指導力」を高めることが求められています。学科では卒業論文、教職課程では本科目が神奈川大学「最後」の授業である4年次生も多く、演習形式で実施する本授業に問題意識をもって取り組んでいました。

こうして教職課程の1年が過ぎていきます。最後に、グループで取り組んだ学修成果発表に関する横浜キャンパスでの様子（「ミニゼミ」の最終報告会での発表）を写真にてお伝えし、教職課程の報告といたします。

間山 広明



「教職実践演習（中学・高校）」のミニゼミ発表の様子

社会教育課程

現在、特に市町村の公務員には、法規を理解し運用するだけではなく、「行政と市民の間」をコーディネートする力が求められている。社会教育課程が「公務員になるのに役立つ」のは、地域の施設で行なう「実習」において、市民の学習や青少年の活動に関わり、〈企画力〉や〈コミュニケーション力〉などの実践力の形成をめざすからである。

社会教育課程では実践力の形成に向けて、2年次で「社会教育実習」、3年次で「社会教育演習」を必修としている。「実習」では、夏休みから後学期にかけて各自が施設で実習する。「演習」では、グループで近隣の施設に出かけ、事業の企画・運営に関わらせてもらう。

2015年度は、白幡地区センターから、11月7日（土）のスポーツ・フェスタの一部（ドッジビー）

を担ってほしいと要請があり、2・3年次生合同で取り組んだ。9月下旬から週に1回、5回ほど大学と地区センターが集まり、企画・準備をした。当日は参加者（小学生）が多く、学生は疲れたが満足できたようだった。貴重な経験になったと思われる。

なお、社会教育課程の履修者全員を対象にした「特別講義を以下の通り開催した。5月19日「福島県飯館村の現在」（藤井一彦・飯館村住民課長）

・5月21日「多様な『性』を考える」（福島光生・ライター）
・6月18日「性同一性障害」（虎井まさ衛・作家）
・7月7日「『子育て』という窓から生涯学習につなげる・つながる」（塚原泉・神奈川区地域子育て支援拠点「かなーちえ」施設長）

日本語教員養成課程

2015年度の日本語教員養成課程履修者は、2年次が13名、3年次が6名、4年次が8名、合計27名である。

現在、日本国内では日本語教育専攻を学科として設置する大学が多いが、本学においては日本語教員養成課程を全学学生対象としたという特徴がある。本課

学芸員課程

学芸員課程では、博物館法施行規則の改正に伴い、本学では2014年度入学生から学芸員養成課程に関する新しいカリキュラムで運用されている。この改正で、8科目16単位から10科目20単位に単位数が増加し、科目名も博物館学に関する専門的な名称に変わった。従来の博物館学といった総括的な名称ではなく、「博物館概論」の他に「博物館教育論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館展示資料保存論」「博物館情報・メディア論」「博物館情報・メディア論」という具合に博物館学に関して個別的な科目が体系化されたカリキュラムとなっている。

このような科目を履修することによって、資格取得を目指す学生院生にとって体系的に博物館学に関わる内容が学ぶことができるようになったのではないかな

の実習生を手厚くご指導いただいた。川崎市ふれあい館（川崎市川崎区）は、川崎市の条例に基づき、外国人と日本人の共生を目的として設置された施設で、外国人住民の生活支援、日本語学習支援、各種講座、外国語などの子どもの学習支援などの先端的な取り組みが活発に行われているが、2015年度は5名の実習生を受け入れて頂き、「外国語につなげる子ども」の学習支

援の場でご指導を賜った。教育実習を終えた学生は、その学びや体験を通じて、学習態度がより意欲的になる、社会的視野が広がるなどの点で目覚ましい成長があった。学生たちの今後のさらなる活躍に期待したい。なお、実習内容に関しては学生自身が執筆編集した『2015年度日本語教育実習報告』を御高覧頂ければ幸いである。

富谷 玲子

と考えられる。博物館学に關してより専門的な内容を学ぶことを期待している。これらの科目を履修した上で、博物館実習を受講することになる。本学では、3年次の「博物館実習Ⅰ」と4年次の「博物館実習Ⅱ」に分けている点特徴である。「博物館実習Ⅰ」では、博物館の実習見学を主に行う。博物館の現場を実際に見て、聞いて理解しておくことが大事だと考えている。そして、4年次で「博物館実習Ⅱ」を履修する。これが、学芸員資格を取得する課程における最終的な科目と位置づけられている。

2015年度は、19名の学生と院生が館務実習を履修した。実習博物館に依頼して2週間ほどの実務を行う。どの学生も館務実習では努力し、実習先からよい評価を得ることが出来た。今年度の実習修了生全員の今後の活躍に期待したい。

小熊 誠

教職課程

教育実習記録より

2015年度、教職課程では175名が教育実習を行いました。教育実習期間中、実習生は日々の振り返りや気づきを一冊の「教育実習記録」にまとめ、指導教諭へ毎日提出し指導・助言を受けています。その中から、実習生3名の活動記録をご紹介します。

理科の授業では8回中6回実験の授業をやらせていただき、演示実験では生徒への見せ方、好奇心のくすぐり方を学びました。そして、まだまだ勉強しなくてはいけないことがたくさんあることがわかりました。また、生徒実験の際、時間配分の難しさを知り、そこに持っていくのに主発問をどれだけ自然に早く持つてこれるのが勝負なのだと思います。また、今回の実習の実験は毒物やガスバー

今回、実習生として受け入れて頂いた行田市郷土博物館は、埼玉県行田市の歴史と文化をテーマにした博物館である。取り扱う分野は歴史、考古、民俗、美術と幅広く、定期的に体験学習プログラム等も実施されている。

実習では、歴史、考古、民俗、美術の各分野における資料の取り扱いや展示方法について学んだり、子供向けの体験学習運営を補助

「これは何でしょう？」と絵をかいてくれたり、私の授業したことを復習してくれたり、日記に書いてくれたりと、毎日見るのが本当に楽しみでした。スマイルライフで毎日子どもたちとやりとりできたことはすごくコミュニケーションをとる上で役に立ったし、子どもたちを知るのに良いと思いました。

授業において、机間指導の際、声をまめにかけることで、分からないことをきいてくれたり、取り組んでいない子にもアプローチできたりするので、これからもまめに声かけをしようと思います。

★

毎日、自主学習ノートとスマイルライフ（毎日日記）を点検していて、私が疑問に思っていることを書く、次の日返事をくれたり、

方や学校職員の方々、生徒や教育に対する姿勢は私にとっての目標であり、勉強になったことがとても多かったです。まずは教師として自分はどう生徒と向き合うかという点、次に生徒の人間性を重んじると同時に教師としての「ものさし」を持ち真摯に向き合う点です。さらにどういう大人になってもらいたいかを考えて教育する。そのためにのメリハリをはっきりさせ、始まりと終わり、注目させる時は妥協することなくしっかりとやる、そのことの大切さを学びました。教師間や生徒とのコミュニケーションは限られた時間の中で行うため、自分が時間に余裕をもった行動をとること、時間を作ること、優先順位を考えながら早急に作業を進めることが求められます。

重要な仕事であるかわかり、学芸員が担う役割の多様さを感じた。

館務実習は、強いて言えばまだ「体験」の段階であり、その後の自分が何をどのように学んでいくかが重要な課題であると思う。10日間の実習で学んだことを糧に、資料と向き合う際には勿論のこと、地域の方を含めた来館者と向き合う際にも、適切かつ臨機応変な対応のできる学芸員を目指したい。

教育実習記録

指導助言欄より

指導助言欄からは、実習校の先生方より厳しくも温かいご指導を頂けたことが窺えました。

新潟県M中学校

真摯な態度で生徒に接しており、3週間という短い期間でありながら生徒に信頼される教科指導、学級指導を行ってくれたことに感謝しています。

教科指導においては、前日までに指導案とともに板書計画も作成し、毎時間の授業をどのように進めていくか、何を生徒に理解させたいかを明確にしていきました。また学級では提出物のチェックを欠かさず行い、生徒の様子をとらえ、気になる生徒には声をかけるなど、細やかな対応をしていました。

部活動では野球部、陸上部の生徒に対して、技術的な部分でアドバイスを送り、生徒の意欲を高めました。

今回の教育実習を通して、教師になりたいという思いを強くしたと聞いています。その思いを叶え、いつの日にかまた同じ職場で仕事をする機会が来ることを心待ちにしています。

夢への第一歩

日本語教育実習を終えて

外国語学部国際文化交流学科4年

早坂和花子

「日本語教師になりたい。」と心に決めたのは、中学2年生の時だった。私に英語を教えてくれた恩師との出逢いをきっかけに、「先生」という存在へ憧れを持つようになった。また彼の授業のおかげで英語が好きになった私は、ALT（外国語指導助手…Assistant Language Teacher）の先生とコミュニケーションをとることに楽しさを感じるようになった。私が日本語

神奈川大学 心理・教育研究論集

発行 神奈川大学教職課程研究室

第 38 号

論文

・映画教材を用いた「地方創成」の授業づくり ―群馬県大泉町発まち映画「グラス★ホッパー」及び「サンゴーヨン★サッカー」を事例に― ……日下部龍太

研究ノート

・特別支援教育に関する理解を目的とした教員養成教育の提案 ……望月 耕太

・社会科授業における政治的中立を考える ……桑山 俊昭

・米国におけるオルタナティブ・スクールの分類と効果に関して ……鈴木 匡

指導法・実践報告

・高等学校学習指導要領と大学受験指導 ……榎本 里志

・中学校数学科「授業力向上の工夫と改善」 ……中村 眞一

・中学校理科の実験を効率的・効果的に行う工夫 ……村上 篤男・矢部 丈登・額田 悠希

・「考える」授業に向けて ―アクティブ・ラーニングを見据えた生物授業実践報告― ……吉田 修久

・“オ”と“了”はなぜ共起できないのか？ ……鈴木 進一

・学生・教員が共に成長する場を求めて ―「学校ボランティア」の展開に関する中間報告― ……本間 利夫

第 39 号

論文

・中高教員養成のための理科教育論序説 ……関口 昌秀

・〈同和教育〉の誕生 ―乾武俊と被差別部落の民俗文化研究― ……友常 勉

・高校数学教育の負の影響 ……根上 生也／渡部 禎郎

・教育相談面接における「おしゃべり」の機能について ―過剰適応気味に成長してきた女子中学生の不登校と過剰適応との関連で― ……加藤美智子

・ボランティア経験が教育実習に及ぼす効果と期待 ―インタラクティブな取り組みの検討― ……齊藤 ゆか

・課題探求能力を高める「教職実践演習」のあり方 ―学校教育及び生涯学習が扱う「社会」の検討から― ……齊藤 ゆか

研究ノート

・教師としての育ちと学びを考える ―教員免許更新制の導入との関連で― ……安彦 忠彦

・教育実習指導についてⅠ ～教職経験と振り返り～ ……大西 勝也

・介護等体験からの「学び」 ……荻野佳代子

・欧米における「継承語としてのポルトガル語」教育 ―その普及と教育者ネットワークの生成― ……拝野寿美子

・算数・数学教育と英語教育の連携の視点について ―最近の教育を取り巻く情勢から― ……平田 治夫

指導法・実践報告

・教科教育法・中学校社会科の試み ……澤田 敏志

・満18歳選挙権にどう対応するか ―シチズンシップ教育へのあり方を考える― ……出川 清一

・道徳の授業の充実に向けて ……福島 睦恵

・生徒の主体性を高める学級経営 ……齋藤 元

・「学びの共同体」によるアクティブラーニングの実践 ……牧嶋 秀雄

先輩から後輩へのメッセージ
～教員採用試験合格者より～

横浜市 中学校 社会 合格

「教員としての自分を知る」

法学部自治行政学科4年 井上 恵理

「もし授業中に生徒が授業と関係のないことをしていたら？」アシスタントティーチャーを始める前にこう聞かれたら「その場ですぐに注意をする」「なぜそのようなことをするのか生徒の話を聞く」と答えていたと思います。それが教員として当たり前だと思っていました。

しかし、中学校のアシスタントティーチャーを始め、この当たり前のことができない自分を知りました。どのような言葉で注意をすればいいのか分からない、注意をしたり話を聞こうとしたりしても生徒に拒絶される、といった様々なこと

群馬県 中学校 社会 合格

「充実した学生生活を」

経済学部経済学科4年 萩原 慎

私は「先生になる」という目標を持ち、神奈川大学に入学しました。この4年間の大学生活を過ごす中で一番大切だと感じたことは「先生になりたい！」という強い気持ちを持つことです。とてもシンプルなことです。周りの友人より多い日々の講義や課題、教育

を磨く上で大切なことは、勉強はもちろんのこと、友人ともたくさん遊び、学校生活を一生懸命楽しむことだと思います。人との関わりの中で学べることはたくさんあります。私は学校ボランティアを通じて、現場の先生や子どもたちから、先生としての態度や子ども

への声かけなど、私自身の課題に気づかされました。最後になりますが、将来みなさんが教壇に立った時に生徒に自慢できるような充実した学生生活を送ることが、教員採用試験合格へ近づく一歩だと思います。ぜひ今だけしかない時間を全力で楽しんでください。

神奈川県 中学校 英語 合格

「出会い」

外国語学部英語英文学科4年 桜井 素雅

「生徒は教師という人間に出会うのであって、教材と出会うのではない」これは私が英語教育に関する本を読んだときに印象に残った言葉で、教科の好き嫌いは担当教師の持つ魅力や人間性による影響が大きいことを意味します。

私は大学4年間で、人間性を高めるために、教師として生徒の前に立つて恥ずかしい自分になるために、3つの出会いを通して成長することができました。

に参加し、現場で活躍する先生方からも学ぶことができました。3つ目は「生徒」との出会いです。学校ボランティアや教育実習でいろいろな生徒と関わる中で、私の教師への道は確固たるものになりました。

横浜市 中学校 保健体育 合格

「我以外皆我師」

人間科学部人間科学学科4年 久家 光喜

「保健体育の教師に絶対になる」という目標を掲げて私は神奈川大学に入学しました。そのため、教職の授業やゼミ活動に熱意をもって取り組みました。授業の内容を学ぶだけでなく、講義してくださる先生方の授業構成や仕草などからも学ばせていただきました。

また、3年次生から母校で学校ボランティアをやらせていただき、先生方の動き方や生徒との接し方を学ぶとともに、生徒たちから学ぶことも多くあり、授業

神奈川県 小学校 合格

「子どもたちと過ごす4年間から夢の実現」

理学部情報科学学科4年 川尻 みほ

小学生の頃から「将来の夢は？」と聞かれたら、「先生になりたい！」と答えていたことを覚えています。出会った先生に憧れを持ち、子どもたちと一緒に笑える、楽しく過ごせる先生になりたいと思ったのが教師を目指したきっかけでした。

振り返ると、私の4年間は子どもたちとともに過ごした日々でした。学習支援ボランティア、学校ボランティア活動などに参加してきました。ピアノを弾いたり、折り紙を教えたり、勉強を教えたり…。教えたときに「ありがとう」「わかった！」と言ってもらえることがうれしくて、それが私の原動力になっていたと思

2015年度
資格教育課程協議会
※は運営委員

会長

【社会教育課程】
※入江 直子

副会長

【教職課程】
※古屋喜美代

【教職課程】
大西 勝也

澤田 敏志

荻野佳代子

※間山 広朗

下田 節夫

横溝 亮一

関口 昌秀

※鈴木そよ子

望月 耕太

【学芸員課程】
佐野 賢治

田上 繁

安室 知

※小熊 誠

廣田 律子

日野 晶也

※金沢 謙一

【日本語教員養成課程】
※富谷 玲子

担当事務職員
【資格教育課程課】
八重樫典子

沖田 智大

瀧上 佳子

里村 友実

佐野 恭平

【平塚教務課】
小川 繁弘

肥田美恵子

編集後記

資格教育課程は学生と職員の距離が特に近いと思います。初めは不安そうに履修相談に来た学生も、実習を終えて無事に免許を取得し、自信をもって卒業します。その姿を窓口で見ながら、学生の力強い成長を実感し、頼もしく思っています。
鈴木そよ子・佐野恭平